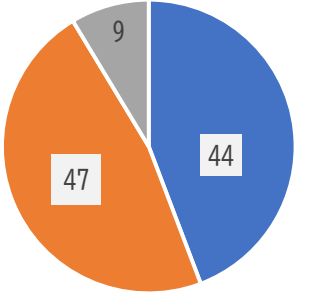
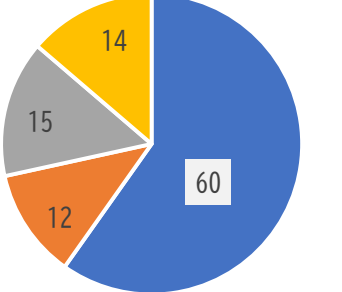
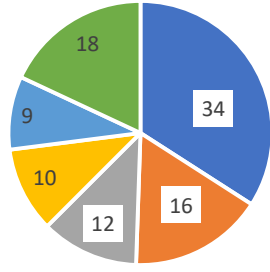
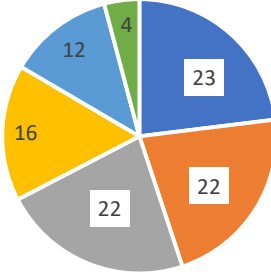


	第1回農林水産審議会からのご意見・ご提案	生産者や団体へのアンケート調査結果（回答数104）																		
<p>1 労働力の確保</p> <p>(1) 新規就業者の育成支援</p> <p>(2) 多様な働き手の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者の定着率を高める方法が必要 ・アカデミー研修生を受け入れる側の体制強化が必要 ・研修生の増加には漁家子弟等へのアプローチ強化が効果的 ・雇用就農者の増加のために、経営力の高い農業法人への育成が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人人材等の労働力の確保について、県と連携して進めたい ・経済学や福祉分野の学生に対するインターンシップの実施 	<p>(アンケート集計)</p> <p>「必要な人員が確保できていない」38%</p> <p>「後継者がいない」64%</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き手の確保は外国人に頼っている状況 ・繁忙期の人材確保が難しくなっている ・規模拡大に向けた労働力の確保に懸念 ・社員教育などの組織の体制強化が必要 																		
<p>2 産地づくり</p> <p>(1) 水田・園芸の振興</p> <p>(2) スマート化の推進</p> <p>(3) 林業の振興</p> <p>(4) 水産業の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高温に強く、食味に優れる「にじのきらめき」などの新品種の普及 ・サツマイモの収穫量は20年前より20%減少するなど、他の品目とも面積維持、拡大を目指していく。 ・耕作放棄地をまとめて利用してくれるシステムがあれば良い ・中小の土地改良区について、運営基盤強化に向けた合併推進を、計画目標に掲げて欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・農薬散布ドローンは省力効果に優れるが、導入・維持コストは高く、作業代行業者の利用が望ましい。 ・遠隔操作による水管理など、少ない人数でも農業生産基盤を保全管理できる施策を推進してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・植林は森林保全、国土強靱化にもつながることから、所有者の負担軽減について、市町村と連携して取り組んでほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・高水温化により、藻類養殖における食害が深刻化している ・水質変化(貧栄養化)に対し、海底耕うん等の対策を実施してほしい。 ・ブルーカーボンによるカーボンプレジットは、漁業者の収益性向上につながるため取り組むべき。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1406 746 1720 817"> <p>今後の経営規模について (% : n=104)</p>  <table border="1"> <caption>今後の経営規模について (% : n=104)</caption> <tr><th>規模</th><th>割合</th></tr> <tr><td>拡大したい</td><td>44</td></tr> <tr><td>現状維持</td><td>47</td></tr> <tr><td>縮小する</td><td>9</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="1792 746 2132 817"> <p>スマート機器活用の課題点 (% : n=104)</p>  <table border="1"> <caption>スマート機器活用の課題点 (% : n=104)</caption> <tr><th>課題点</th><th>割合</th></tr> <tr><td>コストが高い</td><td>60</td></tr> <tr><td>使い方が分かりにくい</td><td>15</td></tr> <tr><td>地形等の制約がある</td><td>12</td></tr> <tr><td>利用できる機械がない</td><td>14</td></tr> </table> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート機器による生産の向上には、ほ場整備を併せて行うことが必要 ・環境制御システムを使用し、収量増加と品質の高位平準化している。 	規模	割合	拡大したい	44	現状維持	47	縮小する	9	課題点	割合	コストが高い	60	使い方が分かりにくい	15	地形等の制約がある	12	利用できる機械がない	14
規模	割合																			
拡大したい	44																			
現状維持	47																			
縮小する	9																			
課題点	割合																			
コストが高い	60																			
使い方が分かりにくい	15																			
地形等の制約がある	12																			
利用できる機械がない	14																			

	第1回農林水産審議会からのご意見・ご提案	生産者や団体へのアンケート調査結果（回答数104）
3 販売の促進		
<p>(1) 国内・外の販路 開拓</p> <p>(2) 収益の向上</p> <p>(3) 木材利用の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻「あきさかり」や青果物については、関西量販店を中心に販売強化を進めたい。 ・ 大阪関西万博の「徳島まるごとパビリオン」は、徳島県の取組を発信する好機であると考えます。 ・ 県庁で開催している「夕暮れマルシェ」などは、新しく賑やかであり興味を持っている。 ・ 出荷羽数日本一の阿波尾鶏のように、県が民間と一体となり計画的に産業を牽引し、生産販売をしていく風土づくりが望まれている。 ・ 海外市場において評価を高めた後に、国内での知名度を向上させる方法もある。 ・ 2024物流問題に対し、モーダルシフトや高規格道路等による消費地への安定した輸送体制の構築を要望する。 ・ 有機JAS認証は販路拡大に有効であったため、取得促進するべき。 ・ GAP認証のメリットが認識されるよう、PRや制度改善が必要。 ・ 農林水産物について、資材価格上昇分を転嫁できる仕組みが必要。 ・ 県がリードして、公共施設に積極的に木材を利用する風土づくりや、建築会社等に対する県産材利用のPRが重要。 ・ 公共施設における木材の利用促進のため、木材の分離発注の定着を推進するとともに、入札条件に具体的な制約条件を設けて欲しい。 	<p>販売の促進に必要な取組 (% : n=104)</p>  <p>「地域商社」に期待する取組 (% : n=104)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ■ 市場や消費者へのPR ■ マーケティング調査・商品改良 ■ 有利販売できる販路の確保 ■ バイヤーとの個別マッチング ■ 観光や物産との連携 ■ 国内・外への商品販売 ■ 流通コスト削減 ■ 国内・外における展示会 ■ 集出荷体制の強化 ■ 食文化・観光の一体的プロモーション ■ その他 ■ 専門人材による海外進出支援
4 防災・減災の対策		
<p>(1) 危機事象への備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業版BCPを参考にし、自らが取るべき対策について検討したい。 ・ 人の感染症の多くは人畜共通感染症であることから、家畜伝染病予防対策を緊張感を持って進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験したことのない豪雨が頻発化していると感じる。 ・ 集落の高齢化とともに、生産基盤も老朽化している。